

# 【小施策評価(令和元年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	農政課	
施策	21	農林業の振興	評価 責任者	佐々木 伸司	内線 6032
小施策	21-1	経営力・生産意欲の向上と後継者の育成	評価 シート 作成者	吉田 金一	内線 6033

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>農林業者の高齢化、後継者不足に伴う労働力不足が顕著であり、担い手農家、新規就農者、林業従事者の確保・育成に取り組む必要がある。</p> <p>県内最大の消費地である地域特性を生かした農林業の展開を図るため、農工商連携や6次産業化、ブランド化による農畜産物の高付加価値化と販路拡大及び産直施設の経営強化への支援が必要である。</p> <p>有害鳥獣による農作物被害を軽減し、農家の収益を向上させるため、有害鳥獣の捕獲及び被害防止対策を強化する必要がある。</p> <p>安全安心な農畜産物の安定供給のため、米やりんごの減農薬、減化学肥料による栽培など、環境保全型農業に取り組む必要がある。</p> <p>地域林業を活性化するため、健全な森林の育成と市産材の利用を拡大する必要がある。</p>	<p>農業者・林業者の生産意欲が高まるような振興施策を展開するとともに、地域の特性を生かした多様な農畜産物の高品質・ブランド化により生産性が高く競争力のある産地の形成を図るため、盛岡産農畜産物のブランド力の向上をはじめとした「食」と「農」の連携を積極的に推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
農業者・林業者	生産意欲が高まる。
農業者、飲食店等の食産業事業者	盛岡産農畜産物のブランド力の向上をはじめとした「食と農」の連携が図られる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析
指標① 都市・農山村交流人口		人	↗	<p>【農業まつり・グリーンツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業まつりの来場者数が増加した(平成30年度14,000人→令和元年度25,000人)。</li> </ul> <p>【新規就農者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者は増加傾向にある(30年度150人→元年度161人)</li> </ul> <p>【中山間地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等直接支払事業の取組により、中山間地域等の耕作放棄地の発生や農用地の減少を抑制した。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産農家1戸当たりの飼育頭数が増えてきている。</li> </ul>	<p>【農業まつり・グリーンツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな取組として、いわて盛岡シティマラソン2019と同時開催することでイベントの相乗効果として集客増につながった。</li> </ul> <p>【新規就農者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者確保を目的とした対策(見学会、親元就農給付金)を実施したことによる効果と見込まれる。</li> </ul> <p>【中山間地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付金の活用により、条件不利な中山間地域にある農地の適切な維持管理が行われたため。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産関係団体への各種補助金により、畜産経営の下支えができた。</li> </ul>
当初値 (H25)	1,231,058	R1目標値	1,292,000	R6目標値	1,354,000
指標② 本市がブランド化に取り組んできた品目を使った6次産業化商品の販売額		万円	↗	<p>【もりおかの食と農バリューアップ推進戦略に基づく取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食と農体験・応援プログラムや「美食王国もりおか」ファンクラブ会員限定イベントを複数展開したほか、「Food &amp; Agri」ジョイントミーティングを開催し、異業種連携による盛岡産農畜産物の付加価値向上を図った。</li> <li>食と農の魅力を発信するリーフレット「もりおか食日和」を発行するとともに、市民が盛岡産食材を味わえ、購入できる機会を創出したほか、盛岡産農畜産物が食産業事業者継続的に利用されるよう、生産者・産直と食関連産業をつなぐ流通の仕組みづくりに取り組んだ。</li> <li>「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」の成果と課題を整理し、引き続き当該戦略を推進していくために必要な改定を行った。</li> <li>市内の農業者などが、盛岡産農畜産物の6次産業化等に取り組むことに対し、補助金を交付した。</li> </ul> <p>【盛岡特産ブランド食材の加工品販売額】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売総額が対前年度比18.6%伸び、目標値である27,000千円を平成30年度に続き達成することができた。</li> </ul>	<p>【もりおかの食と農バリューアップ推進戦略に基づく取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に掲げるアクションプランに基づき、食と農の基盤強化、魅力発信及び流通体制の構築に係る事業を複数展開し、盛岡の食や農への興味、関心を高める機会を創出できたことによる。</li> </ul> <p>【盛岡特産ブランド食材の加工品販売額】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡の美味いもんアンバサダーの認定メニューや6次産業化等スタートアップ支援事業により開発された商品にブランド食材が積極的に使用されたことによる。また、平成30年度に販売額が落ち込んだアロニアについて、販路が拡充し、販売額が回復したことが要因として挙げられる。</li> <li>前年度と比較し、津志田芋、もりおか短角牛、黒平豆を使った加工商品の販売額は減少となったが、定番である盛岡りんごの加工品が順調に増加するとともに、アロニアにおいては、新商品や新たな販路開拓により全体の販売額が増加したことによる。</li> </ul>
当初値 (H25)		R1目標値	2,700	R6目標値	3,900
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者が認定農業者へ移行するなど、農業への定着を図ることが必要。</li> <li>畜産農家戸数が減ってきている。</li> <li>市内の森林が、人工林を中心に利用期を迎えていることから、木材利用や再造林など、森林資源の循環利用の推進が必要となっている。</li> </ul>				<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就業直後は農業経営が不安定になりやすく、就農者の所得が確保しにくいなど、新規就農者の農業経営は依然として厳しい状況が続いている。</li> <li>高齢化や後継者不足等によるものや、飼養管理費の高騰など、畜産経営の悪化により影響が考えられる。</li> <li>木材価格の低迷などにより森林所有者の経営意欲が低下している。</li> </ul>	
問題点				問題の要因分析	
<p>・盛岡特産ブランド食材の中には、消費の安定性や継続性に欠けているものが存在する。</p>				<p>・食材の品目によっては、消費者や飲食関係事業者のニーズを満たすために必要な生産量を確保することができないものや流通体制が整備されておらず安定的に入手することができない現状にあるものが存在している。</p>	

## 今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<p>★…R2年度着手済または着手予定</p> <p>☆…R3年度以降の着手を検討</p>
<p>★ 高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、地域における「人と農地の問題」への対応を推進する。</p> <p>★ 農業まつりを通じて農業に対する理解の促進を図り、安全安心な食の啓発と地産地消を推進するとともに、新たに盛岡産農畜産物の魅力発信を行う。</p> <p>★ 農業者の就業機会の創出や6次産業化・地産地消の推進の役割を担う農産物直売所を側面から支援する。</p> <p>★ 新規就農者の確保を目的とした対策を引き続き進めるとともに、新規就農者が認定農業者へ移行するなど、農業に定着する取組を行う。</p> <p>★ もりおか短角牛の素牛導入に係る経費負担を軽減する補助制度を引き続き実施し、肥育農家の育成・確保を図る。</p> <p>★ 森林資源の循環利用のため、市産材の需要拡大の推進が必要である。</p>	
<p>★ 令和元年度までに整備した食と農の基盤を活かし、食と農に関わる様々な主体が交流し、盛岡産農畜産物に愛着を深められる機会を増やしながら、盛岡産農畜産物が市内外の食産業事業者継続的に利用・消費されるよう生産者と食関連産業をつなぐ流通体制を強化していく。</p> <p>★ 異業種連携による盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大を促進するとともに、他の事業と連携し新規就農者や担い手の確保に取り組む。</p> <p>★ 特産食材として振興してきたブランド食材の今後の方向性を検討するために、各生産組合等の意向を確認し整理をしていく。</p>	

指標③ 有害鳥獣被害金額				単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析																				
				千円	↓																						
当初値 (H25)	26,192	R1目標値	23,621	R6目標値	22,371	・有害鳥獣捕獲活動の担い手(狩猟免許取得者)が増加した。	・平成29年度から開始した市単独の「狩猟免許取得費補助金」の活用が、狩猟免許取得者の増加に結びついた。																				
<table border="1"> <caption>有害鳥獣被害金額の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>26,192</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>21,949</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>23,081</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24,864</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>32,234</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>37,827</td> </tr> <tr> <td>R1目標値</td> <td>23,621</td> </tr> <tr> <td>R6目標値</td> <td>22,371</td> </tr> </tbody> </table>						年度	金額 (千円)	当初値 (H25)	26,192	H27	21,949	H28	23,081	H29	24,864	H30	32,234	R1	37,827	R1目標値	23,621	R6目標値	22,371	<th>問 題 点</th> <th>問題の要因分析</th>		問 題 点	問題の要因分析
年度	金額 (千円)																										
当初値 (H25)	26,192																										
H27	21,949																										
H28	23,081																										
H29	24,864																										
H30	32,234																										
R1	37,827																										
R1目標値	23,621																										
R6目標値	22,371																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クマやニホンジカによる被害のほか、近年は、イノシシ・ハクビシン等、新たな鳥獣による被害も拡大している。</li> <li>・有害鳥獣の捕獲の担い手の育成・確保が喫緊の課題である。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化の影響により、野生動物の生息域が拡大しているとともに、中山間地域の過疎化により耕作放棄地となった農地が野生動物の活動域となっている。</li> <li>・捕獲の担い手となる猟友会員の高齢化と新たに担い手となっても経験を積むことに日時を要することが強く影響している。</li> </ul>																					

★「狩猟免許取得費補助金」の活用による捕獲の担い手の確保や「電気柵設置費補助金」による被害防除対策を引き続き推進する。

★岩手県が実施する指定管理鳥獣捕獲等事業とのより効果的な連携方法について検討する必要がある。

★イノシシ等の新たな鳥獣の生息や被害が確認されており、今後、生息域の拡大等が懸念されることから、被害防除の対策を検討するとともに、盛岡広域8市町で鳥獣被害防止対策協議会を設立したことから、広域での取組みについて協議を進めていく。